

次期県計画の施策の展開方向(施策体系)案

【施策の展開方向のねらい】

- 『産業としての農業振興(仮)』は、「①中核的経営体などの経営体の育成と多様な人材の確保」、「②責任ある食料の総合供給産地として持続可能で安定的な農畜産物の生産」、「③多様化する実需者や消費者のニーズに対応した販売戦略」の3つの視点を位置付け
- 『暮らしの場としての農村振興(仮)』は、「①地方回帰の動きが加速化する中、移住者や都市住民など多様な人材による農村づくり」と、「②頻発化・激甚化する災害や人口減少社会への対応などによる持続可能な農業・農村の基盤づくり」の2つの視点を位置付け
- 『生産と消費を結ぶ信州の食の展開(仮)』は、「①地産地消などのエシカル消費の推進」と「②若者への食の継承」の2つの視点を位置付け
- 施策の共通視点として、「持続可能」、「DX」、「食料安全保障」などを設定する

I 産業としての農業振興(皆が憧れ、稼げる信州の農業)(仮)

- 皆が憧れる経営体の育成と人材の確保
  - ア 中核的経営体の確保・育成
  - イ 地域計画(人・農地プラン)に基づく担い手確保と農地集積の推進
  - ウ 多様な担い手の呼び込みによる支え手の確保
- 「稼げる農業」の創出と持続的な信州農畜産物の生産
  - ア ニーズに応える信州農畜産物の生産(果樹又はぶどうで特出しを検討)
  - イ 農村のDX及びスマート農業の推進による生産性の向上
  - ウ 有機農業等の持続可能な農業の面的拡大と安全安心な農畜産物の生産
  - エ 持続可能な農業を推進するための技術の開発・普及
  - オ 稼ぐ産地を支える基盤整備の推進
- 実需者ニーズに対応した県産農畜産物の販路開拓・拡大
  - ア 県オリジナル品種などの県産食材の魅力(価値)発信
  - イ 稼ぐ力の強化につながる輸出の拡大
  - ウ 多様な主体との連携や農村資源の活用による新たな価値の創出
  - エ 多様なニーズに対応した流通機能の強化

共通視点：「持続可能」・「DX」・「食料安全保障」

II 暮らしの場としての農村振興(well-beingを実現する信州の農村)(仮)

- 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり
  - ア 地域計画(人・農地プラン)に基づく適切な農地利用
  - イ 多様な人材の活躍による農村の振興
  - ウ 地域ぐるみで取り組む多面的機能の維持活動
  - エ 農村RMOの組織化推進による農村コミュニティの維持
- 安心安全で持続可能な農業・農村の基盤づくり
  - ア 災害から暮らしを守る農業・農村の強靱化
  - イ 持続可能な営農を支える農地・農業用施設等の整備

III 生産と消費を結ぶ信州の食の展開(魅力あふれる信州の食)(仮)

- 食の地産地消などエシカル消費の推進
  - ア 持続可能な暮らしを支える地産地消・地消地産の推進
  - イ 有機農産物など環境にやさしい農産物等の販売消費拡大
- 次代を担う若者への食の継承
  - ア 伝統野菜など地域ならではの食の継承
  - イ 農業者と関係機関の連携による食育・農育の推進

南信州地域の農業・農村の特色(近年の状況変化)

- 農業経営体の減少スピードが加速化し、担い手不足による農業生産力の低下を懸念
- 労働力不足に対応するため、スマホのマッチングアプリによる人材確保の取組が開始
- りんご、なし等果樹の主産地であるほか、野菜や花き、肉牛、養豚等多品目の複合経営が多い
- 労働集約型の果樹栽培で新技術の導入が進みつつあり、省力化と生産性向上の進展に期待
- GI制度に登録された市田柿、「信州の伝統野菜」、茶等の特色ある地域農産物を振興
- 山間傾斜地が多く、経営体当たりの耕地面積(83a)が狭い南信州地域に適したスマート農業の展開に期待
- 持続可能な社会につなげる取組への意識改革が求められる
- 山間地では有害鳥獣対策など集落機能の維持を危惧
- 基幹的農業水利施設の老朽化が進行し、補修や更新整備が急務
- 急峻な地形と脆い地質、加えて東海地震に係る地震防災対策強化地域等に指定されているため、農村や農業施設に対する防災対策が急務
- 三遠南信自動車道やリニア中央新幹線による交流人口の増加に期待

【根拠データ】

- 経営耕地面積(H22→R2):25%減
- 農業経営体数(H22→R2):30%減
- 1日農業バイト「daywork」による労働力補完の実績 R3:農家42戸(延べ166)、作業者298人(延べ1,865人)
- 作物別農業経営体数(単一経営)の構成割合(R2):果樹類45%、(H22→R2):5.3ポイント上昇
- なし樹体ジョイント栽培(H27→R2):4.6倍(0.78ha→3.6ha)
- りんご新しい化・高密度栽培(H27→R2):28%増(51.6ha→66ha)
- 農業用マルチローターによる水稲防除面積(H27→R2):0ha→16ha
- 野生鳥獣による農林業被害額は減少傾向(H27→R2):36%減(3.4億円→2.2億円)

(テーマ素案) 皆でつなく 南信州農業の新たな時代

南信州地域のめざす姿(案)

- 次代へつなく南信州農業
  - 新規就農者、中核的経営体、定年帰農者など多様な担い手により、南信州地域の特色を活かした農業経営が展開されています。
  - 円滑な樹園地継承や新品種・新技術の導入により県内有数の果樹産地が維持・発展しています。
  - 地域の特徴を生かした野菜、花き、畜産等の多品目生産による安定した複合経営が展開されています。
- 人と人がつながる南信州の農村
  - 地域の話合いを通じて、今後の農業の在り方や将来展望を共有することで、魅力的な農村の景観が守られ、歴史的な農業用施設や美しい農村景観が観光資源となるなど、農村の多目的機能の活用が進んでいます。
  - 農業水利施設の計画的な改修や、地すべり防止施設の整備更新により、安全で災害に強い地域づくりが進んでいます。
  - 多様な住民参加による地域のニーズに即した農村RMOが形成され、集落機能が維持されています。
- 「食」と「農」がにつながる南信州
  - リニア中央新幹線の開通による交流・流入人口の増加を見据えて、南信州らしい「食」を介した交流の促進や「観光+農業」が一層盛んになっています。
  - 食育・農育を通して、子どもたちや家族等へ、地元の「農」や「食」への理解が深まり、地産地消が更に定着しています。

施策の展開方向(案)

- 皆が憧れる農業の担い手の確保・育成
  - 県、市町村、JAと連携し、相談活動、研修事業、経営発展支援等の充実による担い手確保と育成の強化
  - 各種セミナー、研修会による新規就農者や中核的経営体の資質向上、多様な担い手の支援
  - 労働力不足に対応するため、マッチング機会の創出や農福連携等による人材確保などへの取組を推進
- 新技術や新品種拡大による競争力の高い果樹産地づくり
  - 日本なしの新たな担い手確保や生産力強化による産地の再構築
  - りんご「シナリップ」など新品種を含めた県オリジナル品種の戦略的拡大
  - 市田柿の円滑な樹園地継承と「市田柿+α」複合経営の推進
  - りんご高密度・新しい化栽培やなし樹体ジョイント栽培など省力化と生産性向上の推進
  - シャインマスカットやナガノパープル等無核大粒品種の生産拡大によるぶどうの産地化
- 南信州らしさを活かした複合産地の構築
  - きゅうり・アスパラガス・白ねぎの安定生産
  - ダリア等200種類以上の多品目花き生産への支援
  - きのこの経営安定
  - 県内一の茶産地の維持
  - 信州プレミアム牛肉・銘柄豚など畜産物の生産拡大及び家畜防疫対策の徹底
  - スマート農業の推進による省力化や生産性向上
  - 環境への負荷を低減した持続可能な農業の推進
  - 気象変動に対応した技術の導入及び経営継続のためのリスク対策の推進
- 皆でつなく豊かな農村
  - 地域の話合いにより、守るべき農地と担い手のあり方を明確にし、集落の維持活動及び有害鳥獣対策などを支援
  - 農村の多面的機能の維持と活用促進
  - 水路など農業用施設の長寿命化、農村地域における防災対策の推進
  - 中山間地域での集落機能を補完する地域づくり事業体の体制を検討
- リニア新時代 世界に通用する農村交流の体制構築
  - 交流人口増加を見据えた直売所の品揃え強化等の支援、「観光+農業」の推進
  - 伝統野菜など地域食材等を取り入れた「食」を介した交流の促進
  - 食品産業との連携への支援による地域農産物の特色を生かす商品開発の推進
  - 輸出を志向する取組への支援
- 農や食への理解醸成
  - 子どもたちの農業体験会の開催など教育現場との協働による食育・農育の強化
  - エシカル消費を推進するため、学校給食での地元産農産物などの利用を促進
  - 市田柿など地域特産品のレシピ開発や料理講座等への支援による地元農畜産物の魅力発信